

旧富士山測候所 活用が延長

2004年に無人化された気象庁の旧富士山測候所施設を借り受け、多彩な研究・教育の場として利用しているNPO法人「富士山測候所を活用する会」は25日、今年7月から3年間の借り受け延長が正式決定したと発表しました。

「測候所を使わないのはもったいない」と集まった同会の研究者らが07年から3年間、夏期に大気化学、高所医学、宇宙線科学、永久凍土の研究など、高所ならではのユニークな研究を進めてきました。

気象庁との新たな契約では、前回よりも利用期間が10日間延長されるほか、貸付場所も増えます。同会は「今後の通年観測にむけて、展望が大きく開ける」としています。

今年の夏には、山岳大気中の水銀の調査、中高年登山者の体への負担の測定など、21の研究グループが多彩なテーマで研究を実施する予定です。